

第5回 SGH・さくら塾（社会連携セミナー）

SGH◆地域社会研究「研修医と語る会」
平成26年9月13日（土）13:00～14:30

対象：医学部医学科希望者（全学年）
講師：県立多治見病院研修医 早稲田紘士先生

医学部での研究、国家試験、研修医の仕事等についてのお話を伺いました！



- 早稲田先生は早大文学部、慶応大学院で哲学を専攻したのち、北海道大医学部に転学し、今年から医師になった方です。先生ならではの学問観や人生観について、医学の研究や医師の仕事について、具体的なお話をさせていただきました。また心肺蘇生法の実習も受講しました。



生徒の感想

- ・編入試験のために24時間中20時間程度勉強していたと伺ったので、並大抵の努力じゃなかなかすることが難しい職であると改めて気づきました。また、情熱が勉強の原動力というのを強調されていたので、なぜ医師になりたいのかという情熱を勉強の励みにして今後取り組んでいきたいと思いました。
- ・先生のお話の中では、解剖の時間に「医学部」という実感がわくということが印象的でした。体を提供してくださった方への感謝は一生忘れてはいけないとおっしゃっており、自分の目指している医者という仕事がどんなものか実感してきました。
- ・心肺蘇生法については、今までも学ぶ機会 was ありましたが、実際近くにいる人が倒れた時に判断ができるのか、もし必要ないのにやってしまったら・・・という不安がありました。しかし、迷うくらいならやるべきという話を聞いて、私も今日からいつ周囲の人が倒れても心肺蘇生ができると自信がもてました。